

令和7年度 中学生の「税についての作文」
神奈川県納税貯蓄組合連合会 会長賞



感謝、そして未来へつなぐ

横浜市立 谷本中学校 第三学年 平林 弥真

僕は泳ぐことが大好きだ。幼い頃から身体の弱い僕は病院にお世話になり、税金のおかげで金銭的にも助けられてきている。喘息の症状が軽くなるように、身体が強くなるようにとの母の思いから始めた水泳だ。

身体が大きくなっても、喘息の治療は継続して行わなければならず、これまで月一回の受診に加えて、入院も経験してきた。喘息や花粉症などアレルギーの治療は、必要な薬代も高額だと聞いた。それらを今は自治体の制度で無償となっていることを知った。その財源は「税金」であることも知り、なんて助かる制度なんだろうと感じたことがある。

水泳の練習に励んでいたあるとき、突然速くなる脈が苦しく、不安に襲われた。かかりつけの医師に相談しながら、大学病院に行くことを勧められ、検査と治療を行うことになった。心臓カテーテル検査、アプリーションなどと聞き慣れない言葉がたくさん飛び交う中で、検査の日を迎えた。高度な医療を受け、数日入院し、退院のときの診察情報明細書にはこれまで見たことのないような点数が並んでいて、大変驚いたことを今もはっきりと憶えている。これらにもこの医療制度が用いられ、自己負担はほとんどなかったことも衝撃だった。多くの人が納めた税金のおかげで、医療を受けることができたと改めて感謝した。そして今は症状も軽減し、また

元気に、少しでも強い選手を目指して練習に懸命に励むことができていく。

「税」と聞くと、身近なところでは消費税くらいしか思い浮かばずに生きてきたが、学びを深めると、所得税や自動車税、固定資産税、住民税など生活する中で多く税が存在することが分かる。そして、こうして納められる税金は、見慣れた街の整備された道路や公共施設、二十四時間三百六十五日休むことなく住民の生活を守る消防や救急隊、警察などに費やされ、僕たちの生活に安全と安心を与えてくれている。僕たちはみんな字を読むことも、書くことも、理解することもでき、それらも税で支えられてきた。これからも僕たちは社会制度の恩恵を受けるのだろうと思う。今の僕は税に支えられることが多く、できることは限られているのかもしれない。だから僕は感謝を忘れず、大人になったときには少しでも支える側になれるよう、恩返し的气持ちを持って税金を納めたい。また税金とは、生活と未来を変えることができるものだと思う。税金によって支えられる人にとって、希望となる人も多く存在すると思う。必要な人に、必要な場所に、納められた税が届くことを願う。

